

## 利他の心

院長 長山 直弘



今年ある方から頂いた年賀状に「コロナの意味を深めて、ご教示下さい」と書いてありました。その間いかけは私の胸に重くのしかかりました。それまで私は老健たけおか・竹丘病院内にクラスターが発生したら大変だ、という程度にしか考えていなかったのです。

状況が長引くにつれて、人為的か自然発生的かという問題とは関係なく、新型コロナウイルス感染症は何故発生したのか、その私たち人類に対する意味は何なのだろうと多くの人が考えざるを得なくなったと思います。自らの生活を省みている人たちもいるでしょうし、それどころでなく今日明日の生活をどうしようと苦しんでおられる人たちもおられます。

私にとって印象的なことは、新型コロナウイルス感染症が世の中の不公平を一層際立たせたということです。世界を見渡すと貧困層が富裕層より感染するリスクも死亡率も高く、ワクチンも行き届きません。仕事も失い易く、自殺者も多いのです。すでに存している社会・世界の不平等を更に露呈させたといえます。

現在の人類は、視野を地球あるいはそれより大きく広げることができます。それぞれの人が地球の規模に立って、地球内で起こっていることを考え感じるすることができます。地球は一つ、人類は（本当は地球上の生物も）一つです。やはり人類全体のことを自分の中に納め考えて、全体をバランスよくするにはどうすればいいか、「人間性」の正義を実現するためにはどうすればいいかということを真剣に考えていかなければならない時が来ています。

これからは利他の心が大切だろうと思います。それは相手の思い通りに動くということではなく、相手の仕合せを願って行動するということ、全体のことを思って行動するということです。草の根にこういう心が充満しないと、核兵器による戦争やテロを防止することは難しいだろうと思います。私たち一人ひとりの生命を過去に辿っていけば、どの人も30数億年の昔に遡ります。一人ひとりの生命がいかに大切に培われてきたかということです。そのことだけ考えても（自然も含めて）大切にしなければならぬ十分な理由があると思います。